

防衛庁・自衛隊における 防災情報に関する取り組み

防 衛 庁

自衛隊による災害発生時の被災状況の把握

災害発生時の被災状況の把握



有珠山噴火の際の地上偵察



三宅島噴火の際の航空偵察

雲仙普賢岳噴火の際の被災地の車両捜索



観測ヘリコプターOH-1



例えば、震度5弱以上の地震が発生した場合には、速やかに、地震発生域及びその周辺について、航空偵察を実施し、官邸等に配信

防衛庁本庁

災害派遣部隊
の指揮所

県等の災害対策本部

多様な手段を通じて、収集した情報を迅速に伝達

自衛隊の特性を活かした取り組み

自衛隊の持つ特有の装備並びに人的組織を活用

自衛隊通信部隊の展開

移動通信車等を県庁等に展開し、部隊と県庁等間の通信を確保。



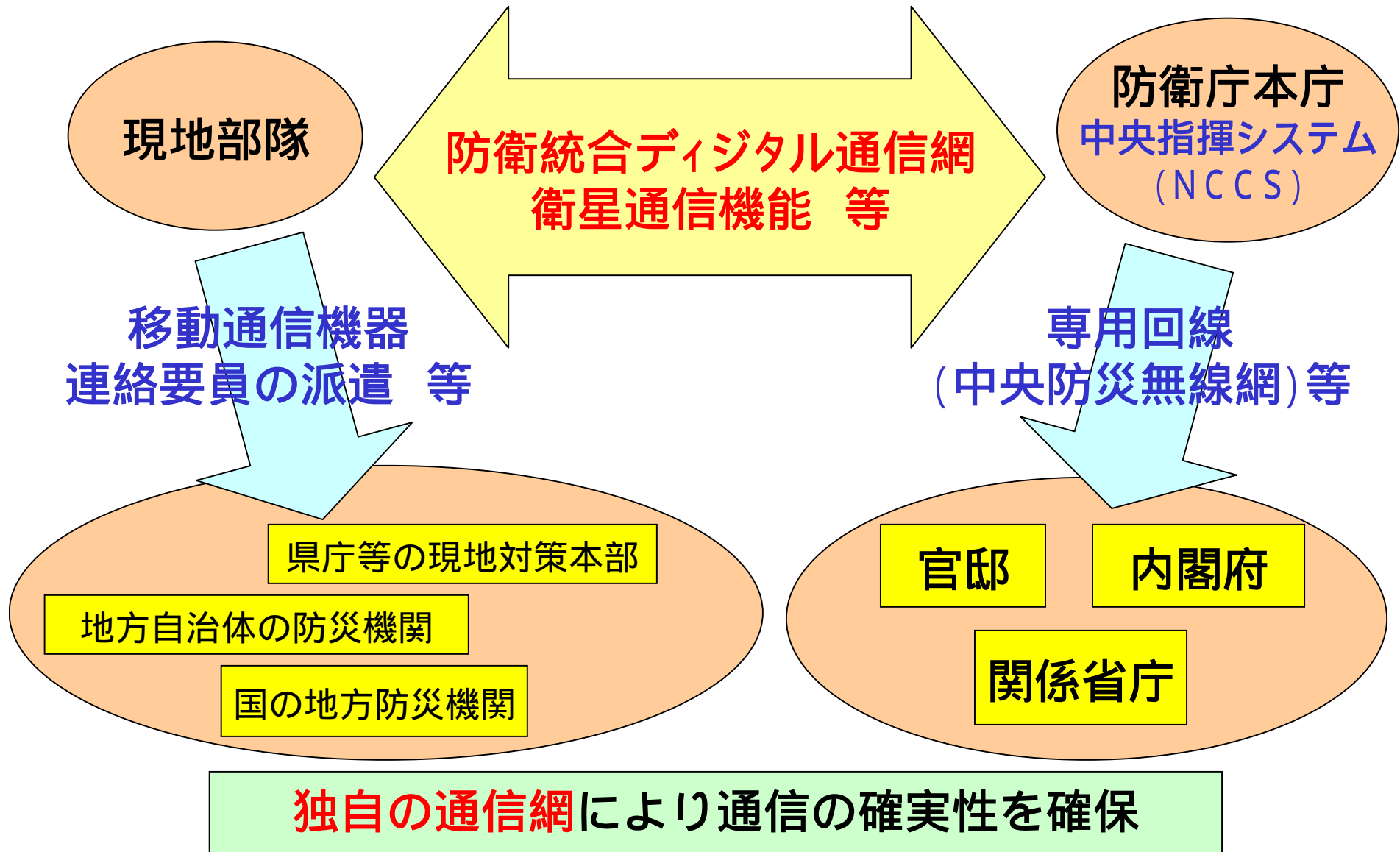
連絡員の派遣

自衛隊の活動状況・収集した被害状況等の情報を提供
他機関との意思疎通の万全を図る。



錯綜した現地での情報伝達・共有に寄与

被災情報の伝達の流れ

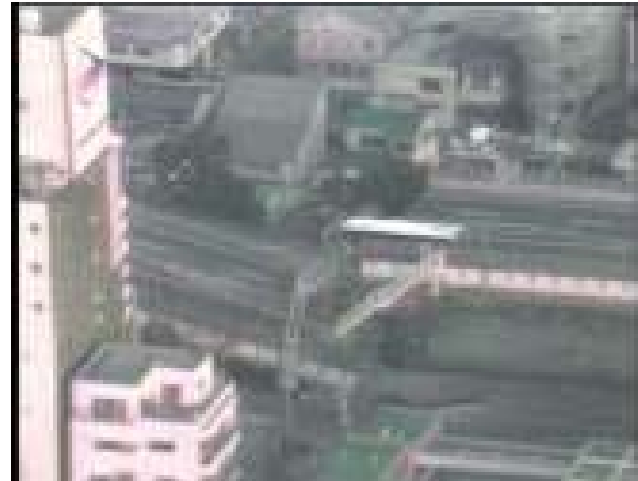


ヘリコプター映像伝送装置の活用実績

有珠山噴火の映像(H12.3)



阪神淡路大震災時の映像(H7.1)



普賢岳噴火の映像(H3.6)



ヘリ映伝の映像は、内閣府、
官邸等に配信

今後の課題

防衛庁・自衛隊においては、災害発災時における
一次情報の迅速な収集と伝達のための体制整備に注力

情報の迅速な収集

- ・航空偵察の実施
- ・ヘリ映伝の実施
- ・車両等による収集 等

情報の迅速な伝達

- ・無線・衛星回線の活用
- ・通信システムの活用
- ・連絡要員の派遣 等

自衛隊の活動の一層の円滑化のためには、

現地災害対策本部への関係情報の一元化

ヘリコプター映像伝送装置の充実

通信システムの一層の充実・活用 等が必要